

〔山槐記〕治承二年十一月十二日辛未定成○和朝臣獻御乳付雜貝○中納手箱一合所儲置之御藥

雜物等○中海馬六入道平清盛獻略

○下略

〔新撰字鏡〕魚鰯○豊粉反小

〔本草和名〕蟲魚鰯○食經卷一一名鰯○出兼和名衣比

〔倭名類聚〕蟲魚鰯○食經卷一七○出兼和名衣比

〔箋注〕倭名類聚抄龍魚鰯○按爾雅云鯪大者出海中長二三尺鬚長數尺爾雅翼蝦多鬚善

游而好躍今聞中五色蝦長尺餘具五色梅蝦梅雨時有之蘆蝦青色相傳蘆葦所變白蝦青蝦各以其色

〔類聚名義抄〕十魚鰯○音退

鯪鯪或正音浩

〔伊呂波字類抄〕江鰯○中物鰯○江篇云長鬚虫也

俗用海老二字味甘平無毒者也

〔下學集上〕形鰯○玉篇云又海老也

俗用海老二字

〔塙囊抄〕魚類字鰯○

鯪鯪並同

〔和爾雅〕龍魚鰯○同

鯪鯪紅鰯海鰯○天鰯

〔東雅十九鱗介〕鰯○中○義不詳○其形の老人の長鬚に似たるをいひ俗に海老の字を用ひしは壁本草に鰯凡數種米鰯糠鰯青鰯白鰯黃鰯河鰯水潢鰯斑節鰯狗鰯蘆鰯龍鰯苗鰯醬鰯等の名見えて此餘綠鰯蠶鰯謝豹鰯の如き凡三十餘種其方俗に隨ひて名異にして物同じく物異にして名同じきもありと見えたるに産する所も其類殊に多しそれが中海鰯は此俗にいふカミエビ又は泥鰯の大なる者を對し挿むなり朱舜水は對鰯とは是を煮る時は頭尾相對する故なりといふクルマエビといふ者此也

〔倭訓釋前編〕えび 鰯をいふ式に蛤をよめり字書に蝦蟹距也とみえたり倭名抄に俗用海老二字とみえたり伊勢えびは龍蝦也むかしより賀壽饗宴の席正月の蓬萊盤中に必ず此物ある